

本校の学校経営方針：豊かな心を持ち、共に高め合う楽しい学校づくりのために

もむぬぷか

momunupuka

『モムヌプカ』は、アイヌ語で「流域の丘」を意味し
桃生という地名の語源とされています

石巻市立桃生小学校

TEL 76-2242 FAX 76-2432

e-mail:

elsmonocl@city.ishinomaki.lg.jp

在籍児童数 89名

令和4年1月11日 第11号

渋沢栄一と桃生小の宝

校長 高砂 宏之

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

さて、NHK大河ドラマ「青天を衝け」が昨年1年間放送されました。このドラマを見ていない方のために、少し解説いたします。主人公は**渋沢栄一**（しぶさわえいいち）です。2024年度発行予定の一万円札の肖像画に選ばれた人です。

何をした人かという、江戸時代末期に農民から武士に取り立てられ、最後の将軍：徳川慶喜の家来になります。慶応2年（1866年）に慶喜の弟の徳川昭武（あきたけ）が慶喜の代理でパリ万博の視察とヨーロッパ各国の訪問を行ったときに随行します。帰国後、明治政府の民部省や大蔵省で改正掛や造幣などの仕事に携わります。大蔵省を

退官した後は、実業界に転じ、第一国立銀行（現・みずほ銀行）や東京商法会議所（現・東京商工会議所）東京証券取引所といった多種多様な会社や経済団体の設立・経営に関わりました。そのうち企業は約500社にも及び「日本資本主義の父」と称されています。宮城県に関連したところでは、東北電力とか、JR東日本、七十七銀行や、日本製紙、イオンなどもその一部です。ビール会社だけでも、アサヒビール、キリンビール、サッポロビール3つとも関わっています。同時に東京養育院等の福祉事業、東京慈恵会等の医療事業、商法講習所（現・一橋大学）等の各種学校の設立。理化学研究所等の研究事業支援、国際交流、民間外交にも尽力しました（ウィキペディアより引用 一部改変）。

このように、渋沢栄一の人生は波乱万丈で、非常に長かった（1840～1931年 満91歳）ので、見所がたくさんありました。何よりも、時々登場する、渋沢の論語をもとにした考え「みんなが幸せになる世を作ることが一番」という考えに共感を覚えました。老年になっても渋沢は、ワシントンの軍縮会議に合わせて渡米し、移民問題など悪化した日米関係の改善に尽力します。関東大震災が発生した時は、救援の最前線に立って働きます。また、中国の水害に対しても、自宅からラジオを通じて募金への協力を呼びかけたりします（自宅から出られない病状の中で）。とにかく、困っている人のために何とかするという気持ちが素晴らしいなと思いました。演出や音楽も良く退屈しませんでした。これだけ、大河ドラマを毎回真剣に見たのは久しぶりでした。

10月24日に放送された第32回「栄一、銀行を作る」では、渋沢が設立した第一国立銀行で明治6年に発行した一円紙幣を母親に見せるシーンがあります。この時発行されたのは、二十円紙幣、十円紙幣、五円紙幣、二円紙幣、一円紙幣の5種類です。いずれも兌換（だかん）紙幣です。兌換紙幣とはその紙幣の所有者が要求した時にはいつでも正貨

（この時は金貨）と引き換えることを約束した紙幣のことを言います。この当時は紙幣が発行されたばかりで、信用しない人が多かったので、このような兌換紙幣が発行されたのです。ですから銀行は自分の銀行で保有している金貨の分しか紙幣を発行できませんでした。名前は国立銀行ですが、経営しているのは株式会社の私立銀行でし



た。現在の日本銀行が作られたのは明治15年のことです。これ以降は紙幣を発行できるのは日本銀行だけになりました。渋沢が見せた一円紙幣には石巻と関係の深い人物の肖像が描かれていました。田道将軍(たみちしょうぐん)です。日本書紀に記録があります。日本一大きい墓で有名な仁徳天皇の時代の武人です。桃生城ができるよりも約300年前の西暦367年に蝦夷(えみし)が背いたので、仁徳天皇は武人として有名だった田道将軍を派遣します。ところが田道将軍は、蝦夷に敗れ伊峙水門(いしのみと 石巻という説が有力です)で戦死します。その場所に墓を作ったのですが、後に蝦夷が墓を暴いたところ(宝が埋められていないか)、大蛇が出てきて蝦夷に毒を吐いて倒したとのこと。それを聞いた人々は、「さすが田道将軍、死んでも蝦夷を倒すなんてすごい。」と、霊蛇田道公と称えました。市内山下地区にはこの田道公を祀る田道神社があります。ここから、蛇田という地名ができたという説があります。

話を、渋沢栄一に戻すと、ネットでいろいろ調べていると、次のような書き込みを見つけました。「渋沢栄一は教科書にも登場しないような人なのになぜ一万円札の肖像になるのでしょうか？」というものです。この時私は、「あれっ？確か教科書に載っていたはずだな。教えた記憶があるぞ！」と思いました。しかし、ネットでざっと調べた限り教科書に載っている記述は見つかりませんでした。じゃあ実際に、教科書を見てみることにしました。6年生から社会の教科書を借りて見てみました。確かに渋沢栄一は載っていません。「前の教科書だったかな？」と思い直し、学校の倉庫から、平成26年の教科書を探し出して見ました。やはり載っていません。「記憶違いか？でも、最近のことなら忘れることがあっても、授業で教えたことを忘れるかな？」と、さらに古い教科書を探しました。平成22年の教科書に載っていました。これが、その教科書の一部です。つまり、渋沢栄一は、青い目の人形の交換に大きな力を発揮していたのです。桃生小の宝であるメリーちゃんも渋沢栄一の力が無ければ存在しなかったのです。

2022年がスタートしました。いつもの冬休みより長く、雪も降り充実した冬休みだったのではないのでしょうか。休み中の大きなけが等は無かったようでほっとしています。今年1年が皆様にとって良い年になりますようお願いしております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月、こんな子供たちを育てていきます

	よく学びよく考える子 (かしこい子)	思いやりのある子 (やさしい子)	元気ががんばる子 (たくましい子)
生活目標	校舎内では静かに過ごそう		
保健目標	かぜを予防しよう		
給食目標	給食に感謝しましょう		



関わりのなかで更に成長する3学期に

12月は5・6年生が合同で体育の授業を行い、跳び箱の上で前転を行う「台上前転」に挑みました。すばしかったのは、授業中に、「初めは私には無理だと思ったけれど、挑戦してみたらできました。」というような前向きな言葉がたくさん聞かれたことです。32人全員が目標に向かって挑戦し続ける様子に、冷たい体育館の空気が温まるようでした。

12月23日(木)の終業式では、4年生全員と6年生の代表児童が縄跳びを披露しました。「こんな跳び方もあるんだ。」「ぼくも跳べるようになりたい!」と、あこがれの眼差しで見ている児童がたくさんいましたが、冬休みに挑戦する姿は見られたでしょうか。

3学期も子供たち同士の関わりを大切にしながら、「かしこく やさしく たくましい」子供たちを育てていきたいと思えます。

◆近代化につくした人々◆

このころ全国に、日本の近代化につくした人々がありました。

銀行や紡績会社など多くの会社を設立した渋沢栄一は、福祉にも力をつくし、身寄りのない子どもたちのための施設などもつくりました。晩年には、外国との友好関係を大切にし、アメリカとの間で人形(青い目の人形)を交かんする事業を行いました。

大原孫三郎は、紡績会社や銀行、電力会社など、多くの会社をつくるほかにも、病院や美術館など、人々のための施設もつくりました。特に、大原美術館(岡山県倉敷市)は、日本で初めての西洋美術館として有名です。



▲ 渋沢栄一



▲ 大原孫三郎

